

第53回日弁連人権擁護大会 第3分科会プレシンポジウム 「資源ごみ」のゆくえ

公害・環境特別委員会委員 山田 芳子 (54期)

2010年9月9日、弁護士会館にて、第53回日弁連人権擁護大会のプレシンポジウム「『資源ごみ』のゆくえ」が東京三弁護士会の主催で開催された。冒頭、東京弁護士会上田智司副会長が開会の挨拶で触れたとおり、今年は循環型社会形成推進基本法の制定から10年目となる節目の年であり、廃棄物問題について考える絶好の機会である。そこで本シンポジウムでは東京都内（特に23区内）の資源ごみの問題を取り上げた。そして、都内のごみ処理とリサイクルの現状を踏まえつつ、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の優先順位をいかに確保するか、リサイクルの費用負担も考えつつプラスチックの処理をどのように行うべきか、製品に対する生産者の責任を使用済み段階まで拡大する拡大生産者責任の実現に向けた具体策は何かを検討し、最終的に真の循環型社会の形成のために目指すべき理想像にまで視野を広げて検討した。

講演に先立ち、当会の横手聡委員から、東京23区における一般廃棄物の処理の流れ、容器包装リサイクル法（以下、「容リ法」）、プラスチックのリサイクルについての基礎的な説明があり、本シンポジウムで検討する上記の視点が提示された。

続く講演では、まず新宿区環境清掃部の伊藤憲夫部長から、新宿区のごみ処理とリサイクルの現状・課題について具体的な数値を盛り込んだ報告があった。区内に清掃工場を持たず、コミュニティの維持も難しい都心の新宿区が、ごみ処理費用の負担に悩み、発生抑制のため区民の意識改革に力を入れる姿がありのまま浮き彫りになった点は興味深い。次に、市民の目線から、容器包装の



3Rを進める全国ネットワーク事務局の中井八千代氏が、リサイクルだけではごみは減らない、と容リ法の問題点を指摘し、リユース容器の推進と事業者の環境配慮設計による発生抑制が不可欠と訴えた。最後に、明治学院大学の熊本一規教授から、拡大生産者責任こそが解決の鍵との指摘があり、回収型リサイクル、有害物質の恒久管理など、ごみ問題の根幹となる基本的理念について説明がなされた。

講演の後、コーディネーターの佐藤穂貴弁護士（第二東京弁護士会）が、本シンポジウムの視点を各講演者に共通質問の形で投げかけて討論した。各講演者とも拡大生産者責任の実現に向けた法改正・法体系の整備を課題とする点では共通していた。

全体で2時間という限られた時間であったが、現状・問題点が端的かつ明快に指摘され、会場からは、日頃、地域のごみ問題に取り組む一般参加者から挙手が相次ぎ、身近なテーマを取り上げた効果を印象付けた。企画においては、講演者用にペットボトルでなくガラスの水差しを

用意してリユースに配慮したが、参加者の感想では、一部の配布物についてカラー印刷にする必要があったのかなど（白黒では文字が見えづらい点を考慮したつもりであった

が）、環境配慮の認識について厳しい指摘も受けた。シンポジウムの準備段階から環境配慮設計を意識する必要性につき、認識を新たにした次第である。

司法修習生に対する給費制存続を求める決起集会・パレード

司法修習費用給費制維持緊急対策本部事務局次長 木村 裕二（42 期）

9月16日、日弁連主催、東京三会・関弁連・司法修習生に対する給与の支給継続を求める市民連絡会、ビギナーズ・ネット共催で、司法修習生に対する給費制存続を求める決起集会、2000人パレード、院内集会を行った。

決起集会は、日比谷野外音楽堂で午前11時から開催した。当日朝は大雨で、どうなることかと心配したが、集会開催前には雨がやんだ。この日は日弁連理事会の日で、会場には全国から集まった日弁連理事、日弁連の対策本部委員、東京三会の弁護士、市民連絡会に参加している労働団体や消費者団体、若手弁護士・司法修習生・法科大学院大学院生・修了生が結成しているビギナーズ・ネットのメンバーなどで、2000人弱が集った。日弁連給費制維持緊急対策本部の川上明彦本部長代行の開会挨拶に続いて、市民連絡会の代表である笹森清氏、同じく山口二郎氏・清水鳩子氏・本多良男氏、国民救援会の望月憲郎氏、クレサラ被害者の会の澤口宣男氏らから給費制存続を支持する力強い発言をいただき、ビギナーズ・ネット代表渡部容子弁護士の訴え、宇都宮健児日弁連会長の決意表明、市民連絡会事務局長の菅井義夫氏の集会アピール採択で締めくくった。

0時15分、いよいよ2000人パレードに出発した。幸い雨も上がり、つい数日前までの猛暑と比べれば、むしろ

歩きやすかった。「昼休み中に、パレードから参加」という人も多く、総勢2000人を超えた。日比谷公園の霞門を出て、国会議事堂前を回り、衆議院・参議院の各議員面会所で各党議員にアピール文を手渡してエール交換を行った。議員面会所で出迎えてくれた議員は、パレードの人数の多さに感心している様子だった。

午後4時から、参議院会館1階で、院内集会を開催した。会場は250人を超える参加者で熱気にあふれていた。国会議員の本人出席が29名、秘書の代理出席が41名であり、時間の都合で冒頭に退席された1人を除き、28名の議員本人からは力強い発言とご挨拶をいただいた。また、各政党の議員から多数のメッセージも寄せられた。新64期司法修習採用予定者2人からの訴えがあり、市民からの声として、市民連絡会代表の笹森清氏・清水鳩子氏、布川事件の桜井昌司氏にご発言いただいて、宇都宮健児日弁連会長の主催者挨拶、金子武嗣日弁連副会長の閉会挨拶で集会を締めくくった。特に多数の国会議員に参加いただけたことは、夏以降、東京三会はじめ、全国の弁護士会での地元議員への要請活動や、全国で行われた市民集会などの成果がここに現れたということが実感された。

*表紙裏にカラー写真掲載